

建築工事監理指針

(令和4年版)抜粋

9.8.2 塗膜防水「標仕」以外の工法

(1) 超速硬化ウレタンゴム系塗膜防水

(ア) ウレタンゴム系塗膜防水工法として「標仕」では、X-1, X-2が規定されている。
その施工方法としては、ゴムべらや金ごて等による塗り工法と吹付け機を用いる吹付け工法がある。

(イ) 代表的な吹付け工法として、2成分形ウレタンゴム系防水材料を専用吹付け機を用い、極短時間で塗膜を形成させる「超速硬化ウレタンゴム系塗膜防水工法」があり、次のような特徴と注意点を有している。

- (a) 硬化時間が短いため平場・立上り部とも同一材で施工できる。
- (b) セルフレベリング性がないため、塗膜厚さが下地の凹凸の影響を受けにくい。
- (c) 膜厚確保のために、施工管理がより重要である。
- (d) 均一な品質を得るために、機器類の整備・調整が重要である。
- (e) 施工に当たっては、周囲に対するスプレーミストの飛散防止対策として、適切な養生を行う必要がある。

(ウ) この工法のうち、JIS A 6021に規定するウレタンゴム系高強度形を用いたものについては、実績も多く、次のような特徴がある(図9.8.1及び図9.8.2参照)。

- (a) 密着工法では、補強布を使用しない。
- (b) 所定量のウレタン防水材料を、一工程で吹き付ける。

「JASS 8 防水工事」のウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着仕様(L-UFH)、ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁仕様(L-USH)及び国土交通省大臣官房営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」のウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁仕様(X-1H)、ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着仕様(X-2H)を参考にするとよい。



図9.8.1 施工状況

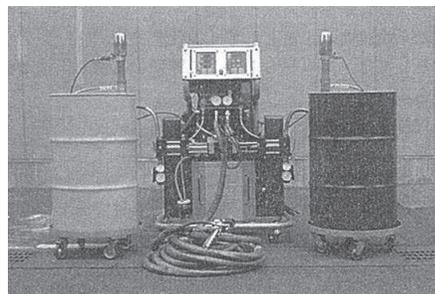


図9.8.2 専用吹付け機